

平成 30 年度 第 2 回高知県立図書館協議会・高知市立市民図書館協議会
議事録

○日時

平成 31 年 3 月 29 日（金） 10:00～11:55

○場所

オーテピア 4 F ホール

○出席者

別紙出席者名簿のとおり

○開催内容

1 開会

市民図書館館長あいさつ

議事録署名人の選出・・・山中委員

2 議事

(1) 平成 30 年度事業の取組状況について

(2) 平成 31 年度予算について

(3) その他

3 閉会

県立図書館館長あいさつ

○議事録

(1) 平成 30 年度事業の取組状況について

<委員>

新しい図書館は多くの方に利用されることにより、市民・県民の図書館となったと思う。皆さん方が非常に忙しい職務に取り組んでこられたことについて、心から感謝申し上げたい。

物流サービスによる協力貸出し点数が、開館してからの日数の関係もあってか減っているが、物流取扱い総点数はあまり変わっていない。協力貸出し点数が減っているのは、1 回あたりの貸出し冊数等が減っているからなのかどうかを教えていただきたい。

児童図書を選定支援ということで、全点購入しスペースを設けていただいて各市町村等が購入する際の参考にさせてもらっている。まだ本町は利用していないが、利用した市町村の方から聞いたところによると、利用時間や場所の狭さといったことが課題として出されて、その後図書館のほうで検討していただいて、利用時間の変更や即日の利用も可能になったと聞いている。今後とも利用しやすくなるようご配慮をお願いしたい。

どこの図書館でも遠隔地返却ができるようになって便利になった。場所によっては増えたことによって問題が起きているようだが、それはうれしい課題であって、それぞれの市町村が対応していかなければならないと思っている。

いろいろな課題が出てきているのではないかと思われるので、問題点を共有していただくために、一定期間が経てばアンケートを実施していただければと思う。

図書館の職員に講師として来ていただきご指導いただいているところだが、小さい町なので

特にブックトークやビブリオバトルとかいったことに慣れていない職員が多いので、それらについてご指導していただけたらありがたい。こちらの都合ばかり言ったが、新しくオーテピアができて利用しやすい環境になってきている。

<事務局>

物流の協力貸出し点数については、平成28年度までは3万点前後で推移していた。29年度は休館することもあり、大量に市町村に貸出ししたので4万2千冊と大幅に増えている。これらの本の返却期限を昨年より12月前後としたので返却数が多くなったことにより、貸出しは増えていないが取扱い総点数が多くなった。

<事務局>

児童図書選定支援コーナーについては、委員のおっしゃった内容の要望もあり、利用しやすいよう見直しさせていただいた。

現在、このコーナーはオーテピア高知図書館にしかないが、来年度も引き続き児童図書を購入し、一年分の資料はオーテピア高知図書館に置き、増えていった分をできれば東部、西部の拠点になる図書館に置いて、そちらのブロックにいる方に見てもらえればと考えている。

西部は一定やっていただける目途が立っており、東部はお願いできるところはないか動いている。中部はオーテピア以外の場所として、研修で教員や保育士が集まる教育センターと協議を進めているところ。各地域でも児童書選定支援コーナーを活用できるよう取り組んでいきたい。

<事務局>

遠隔地返却が非常に多くなっていて、市町村図書館で「返すのが大変だ」という話になっているが、基本的には当該市町村にお住いの方がオーテピアに来て借りて、地元の図書館で返すパターンが多い。ということは、中山間においても図書のニーズがあったということが新しい図書館ができて立証されたようなもの。

地元の市町村立図書館・図書室でも協力貸出の依頼ができるので、市町村でも地元の図書館へ来てもらうことをアピールしていただきたい。また、オーテピアで借りて地元で返却することが可能であるとともに、地元からオーテピア高知図書館の本を貸出しできる。このことについても周知いただくとともに、地元でもニーズの高い本については館で購入いただけるよう配慮をお願いしたい。

<事務局>

高知市民図書館も6分館15分室を持っている。オーテピアができて以来、分館分室経由での貸出し・返却もかなり増えている。高知市では分館分室の運営は地元の団体に委託しているが、分館分室の職員には非常にご苦勞をかけており、そこは相談しながらやっていきたい。オーテピア効果ということでいろんな影響が及んでいる。

<委員>

気持ちよく毎週のように利用させていただいている。

質問を2点。4ページのレファレンスサービスの事項の中でその他はどういうものか。貸出冊数が目標に届きそうにないということだが、この事項が細かくわかれば何か手を打つことができるのではないか。

また14ページの連携支援について、市町村図書館から実際どんなアドバイスや業務支援を求められているのか。

<事務局>

レファレンスのその他で多いのは人文関係。文学も歴史学も本が無いと始まらないので、図書館は基本的に人文関係の利用が多い。

高知資料、健康・安心、ビジネスと分けているが、現実的にはダブっており正直どれに入れるか難しい部分もある。個々の事例を見るとほとんどが重複している。

貸出しとの関係での懸念をおっしゃっていたが、貸出しは2月で底を打ってそのあとは上がっている。自分のシミュレーションでは年間106万冊くらいで110万冊には届かないが、4月に利用者の方々がお忙しくなって館に来られなくなったとしてもさほど悪くはならないと考えている。

<事務局>

市町村から求められる研修、業務支援としては、主に基本的な業務について。市町村では経験年数の長くない職員の方も多く、また新たに入った人ばかりのところもあり、そういうところからの要望が多かった。開館業務支援であるとか、図書館システムが入っているものの今まできちんと本の整理が出来ていなかったのをやり直したいなど、基本的な内容のアドバイスを求められることが本年度は多かった。

例外的に本年度あたりから新しい図書館を建てる動きが県内あちこちで出てきており、それに関して図書館施設について何を考えたらいいいのか、資料の整理をどうすればいいのかといった専門的なアドバイスを求められることもあった。

<委員>

オーテピアが開館し、高知県学校図書館協議会としても非常に恩恵を受けている。教員研修の県大会の会場として利用させていただいたが、オーテピアが素晴らしいとほめられてよかった。

また、読書感想文コンクールの表彰式の会場としても利用させていただいたが、県下全体から参加した入賞者の子どもたちも晴れがましい場で高知城も眺められて、本に親しもうという子どもたちも増えたのではないか。今後も講演会ほか、いろいろな形で利用させていただきたい。

児童サービスのところで山中委員のお話にもあったが、実際に見て参考にできる全点購入に非常に期待をして、課題も耳にしていたところ、先ほどのように改善方法を考えてくださった

のはありがたい。選定の際にカタログだけではいい本かどうかという判断も難しいので、このことは先生方にも伝えていきたい。

個人的にも帰りが遅いこともあり、8時まで空いていると足が向きやすい、借りた本を自宅近くの図書館で返せるという点でも利便性が高い。

質問だが、9ページの行政支援サービスの県市職員向けの図書館活用方法等を紹介したメールマガジンの月1回配信が、12月からということで3、4回のうち1回は見たが、自分の立場からは市の行政メールで見られるのか。

<事務局>

市の行政の掲示板から見られる。

<委員>

このことは職場でも伝えたい。

新聞等でも高知県の高校生の読書量が危惧される事態となっているが、学校に本があることが大事と思う。高知県学校図書館協議会でも部会があるのでその課題はまた共有させていただく。

私は元々中学校の国語の教員で、前任校は小中一貫校で中学生が全校でも40人くらいの学校でビブリオバトルを取り組んでいた。そうすると、子どもたちが課題意識を持って本を読むようになった。中学校の国語の教科書にも本を使って討論する内容もあるので、高校生だけでなく中学生にもなにかできないかなと思った。

第四小学校は派遣のALTが常駐している。昨年度までの人はジャマイカ出身で日本にきたことがなかった人だった。今回多文化サービスというのがあるのを知って、こういうコーナーを新しいALTにも紹介したい。

高知市は図書館支援員を置いてくれているが臨時職員のため継続性がなく、研修の機会も少ない。研修に参加することにより力量が高まった支援員さんが来てくださって図書館の運営が助かっているケースもあるため、今後も高知市には連携を続けていただきたい。

このようにさまざま恩恵を感じており、これからもオーテピアの活用が期待できる。

<委員>

オーテピアができて地域の方も期待もあって喜んでくれている。朝倉ふれあいセンターの分室もオーテピアができたことで貸出し、返却数とも増えている。

また、いろいろな資料の相談が近隣の小学校からあったり、高知大の支援学級との交流や、読み聞かせに職員が出向いたりするなど、オーテピアができたおかげで広がりがあった。

質問として、小中高のオーテピア見学について、高知県人は新しいものに飛びついて1、2年目は来るが、今後小中高へのアプローチを丁寧にしていくことによりオーテピア自身が進歩発展すると考える。見学についてどう考えているか。

それから、今日入ってきてオーテピアはすごく静かだった。スーパーなど後ろに曲が流れていたりするところはあるが、そういった雰囲気作りの取り組みは何かあるか。

<事務局>

高知市の見学については、授業として高知市内の小4と中1全員に科学館に来てプラネタリウムや実験室学習を実施しています。

特別支援学校は、県下全域にお声をかけさせていただいています。

継続という点では、減っていくのは科学館。小4と中1以外の学年での学校利用というものもあるが、そこは新しい物好きも含めて、学校の先生が遠足も含めてどこに行くかの選択なのでそれが減っていく。

周辺市町村も多いが、これも減っていく可能性もある。県下市町村の学校にも来ていただきたいが、土佐清水、室戸など遠方は来づらいので、科学館では出前教室を実施したり、東部、西部で拠点的に各1か所で出前科学館のようなイベントを今年もやったし来年以降もやっていく。

小学校3年生の副読本の中で図書館に来るといふのがある。従来から市民図書館に見学に来てくれていたが、新しくなってよりオーテピアを選択してくれる学校が増えた。

私は、高知市民の館長だが、やはり小学生なら近くの図書館が利用しやすいので、小学校の先生方のチョイスもあるが、個人的には分館分室にも見学に行つて欲しい気持ちがある。今年分館分室の見学は減つたと思うが、来年以降はオーテピアにも来ていただいて、地域の分館分室の図書館にも行っていただいて、継続性を持った図書館利用をしてほしい。子どもが歩いたり自転車でも行ける範囲に図書館があることを知っていただくのが大事と思う。

BGM等音楽については、開館前に一定エリアで流すのはどうかなどの検討はした。ただ、BGMや香りなどは個人での好みがあり、イージーリスニングであっても耳障りに感じる利用者もあるということで図書館内では断念した。好まれる方も多数いるので今後利用者の意見も踏まえた上での将来課題である。

<委員>

開館後、何回か利用している。学生が多く、座るところがない感じがする。

私のほうからは2点。2ページのデータベースの利用状況は多いのか少ないのか。高知新聞データベースとインターネット利用が多い。それ以外のところで利用状況は現在どんな感じなのか。

もう1点は4ページ。私はずっとサービス検討委員会に出ていたので、課題解決の支援サービスという部分が気になっている。ビジネス・農業・産業支援サービスのレファレンスのところで「図書館資料だけでは解決が難しい課題について専門機関等を紹介する」とあるが、課題解決でどういう課題が多かったのか、課題解決の取り組みの現状についてお聞かせいただきたい。

<事務局>

データベースの利用は厳密に比較統計は取っていないが、全国の図書館の中でも比較的多いと思う。高知新聞の利用が多いのは地元であるということと、高知新聞は他の都道府県と比べて県民の購読割合が高く、他紙併読は少ない。他県の場合は地元紙と大手新聞の2紙とって

るパターンが多いが、高知県の場合は高知新聞のみという方が多いので、日経・毎日・読売・朝日のデータベースは利用がずいぶん少なめとなっている。

官報情報検索サービスは特定の方がよく見ているので多くなっている。国立国会図書館データベースは著作権の切れたものを大量にデジタル化したものがあり、いわば電子書籍なので利用が多くなっている。

課題解決支援の具体例は今のところあがっていない。とりあえず目の前の利用者の対応をしているといったところ。

<事務局>

データベース利用件数はまだまだ低いと認識している。「オーテピアでこれだけ多くのデータベースが見られる、調べることができる」というのが県民に浸透し切れていない。データベース講習会を出前図書館の中で開いたり、出前図書館的に商工会が開くものとか、産振センターなどにも出向いてPRして徐々に増やしていきたい。データベースもあり、専門書もある。ぜひともビジネス関連の方、行政、健康医療関係の方にはオーテピアに足を運んでいただきたいのでアウトリーチをして広報している。今は少なく感じられるかもしれないが、年々利用は増えていくと思う。積極的にPR展開したい。

<委員>

いろいろなことについて委員さんから話があった。全体として期待したとおりに進展していることが言えると思う。入館者数のようにずっと立ち上がったところと、これから盛り上がっていくところがある。市町村図書館や、学校、分館分室との連携は拡張していく一方と思う。

基本構想の段階からメンバーに入れてもらっているが、立ち上がれば「オーテピアに来ればこんなサービスがあります」というところを見ていただけると考えていた。ゆっくりとした立ち上がりのももあるが、「使ってみたらよかった」ということになればこれから右肩上がりになってくる。

お話にあった市町村立図書館との連携も、使ってみて初めて近くの図書館で本を返すことができるなど、いろんなことができるということを利用者が知る。

学校のほうも、オーテピアに行った先生や子どもたちの評判がよければ益々連携も深まる。利用者がオーテピアと分館分室とのローテーションに入ってくると、オーテピアで借りている本をごっそり分館へ返すという流れもできてくる。

課題解決やデータベースなどは、今後どんどん発展していくということで非常にご苦労も多くなることとちょっと心配もしている。

広報は今後重要になってくる。不勉強で申し訳ないが、開催されたイベントをすべては知らない。特に日付が決まっていタイトルが付いているようなもの、外部の講師を呼ぶようなものでも知らないものがあった。もう少し広報すればより多くの利用者に来てもらえたのでは。

今非常に大変なところだが今後の発展を考えると二つに収れんしていくと思う。ちょっといっぱいなのでガマンしましょうというところと、もっとクリエイティブに創造的に考えましょうというところ。オーテピアはまだまだ発展していくと考えているところなので、皆さんには

ご苦勞をおかけするが引き続きご尽力いただきたい。

質問としては、先ほど申し上げた広報はどう考えているかということをお聞かせいただきたい。

<事務局>

これまでもイベントを行うときの広報は、マスコミへの投げ込みやチラシでやってきた。今年度は開館でバタバタしていてできなかった機関紙を来年度は発行するので、紙面でイベントや催し物の予定を紹介し広めていきたい。これまでと同様の広報は引き続きやったうえで、来年度はさらに強化していきたい。

<事務局>

併せて新年度に図書館ガイドブックも出していく。まだまだ開館したばかりなのでホームページの見せ方や見やすさを改善していかなくてはならない。

SNSについて、現在ブログ、フェイスブックを公開している。職員のマンパワーの問題もあるが、記事出しをどの程度するかなどを整理しつつやっていく。ほかにもインスタやラインなど媒体は多くある。

今年度は特に開館ということで、特に記事やニュースにさせていただいてもらったが、来年度は積極的にマスコミに取材依頼、情報提供をしていきたい。篠森副会長がおっしゃられたように広報は大事。効率化も含め広報は重点的にやっていきたい。

オーテピア高知図書館でフェイスブックを公開しているが、改善すべき部分として、入りやすさやフォロワーをいかにして増やすかといったところがある。自分自身もフェイスブックをたくさんの人に見てもらいたい。市民図書館時代からフェイスブックはやっているが、「いいね」は289くらい、閲覧数は800くらいで、市の防災のフェイスブックと比べたら10分の1くらい。いかにたくさんの人に見ていただくかを考えていきたい。

(2) 議事2「平成31年度予算について」として、縣市それぞれから説明を行った。

これについては次のとおり意見があった。

<議長>

消費税が半年以内に上がるが、そのときの対応を考えると、この予算で活動に影響はないのか。

<事務局>

消費税については、10月から上がるのを織り込んだ予算。前年度と比較して消費税を10%を加えた額で計上し査定されている。

<事務局>

ざっくり言うと大きくは変わっていない、したがって31年度の活動は30年度と同様にで

きる。大きいところで開館記念講演とかプロジェクト的なものは今年はついていないが、日常的な予算については確保されている。32年度は県市の財政が厳しいので攻防があらうかと思うが、31年度は何とか安心できた。

(3) 議事3その他として1月25日に開催された「オーテピア高知図書館サービス計画推進委員会について」について事務局から説明を行った。これについては次のとおり意見があった。

<議長>

推進委員会の内容はこの協議会の場でもご報告いただくこととなる。また機会があればご意見をいただきたい。それもまた推進委員会に反映される。

<委員>

私と会長はこの推進委員会に出席させていただいている。今回は配布していないが、黄色い本のサービス計画というものを開館前に策定していただいた。

サービス計画策定の検討委員会では、私だけではないが、最後のほうでは「始めましょう」「とにかく勇気を持ってやりましょう」ということでいろいろなことを申し上げた。

「進捗状況はどうなるか」という点で、進む・進まないということもあらうかと、またもつとできるとかこうしたほうがいいのか思った中で、「とりあえずやりましょう」「やった後でこまめにメンテナンスをしましょう」「さらに次の企画も盛り上げましょう」といった話を検討委員会でしてきたが、ありがたいことにそういう流れで採択していただいた。

そして今回、サービス計画推進委員会ということで、サービスのあり方について、開館後の状況を踏まえながらさらに発展させていくという会ができた。今日の会や利用者などのご意見をいただきながらますますサービスを発展させていきたいという主旨の委員会。

会長からお話があったが、随時図書館協議会でもご紹介していくことにならうと思うのでよろしくお願ひしたい。

<事務局>

高知市民図書館の協議会として言い忘れたことがある。高知市子ども読書活動推進計画の2次計画が31年度末までのもので、32年度からの5か年の計画を来年度策定する。次回の県市の図書館協議会の中で一定の方向性や素案をお見せするので、ご意見等伺いたい。

子ども読書活動推進計画は、昨今スマホ等で読書離れが進んでいるのでそれをどうするかという視点で。国もそうだが高知県の子ども読書活動推進計画も5年前に比べると変わっている部分がある。元はできているのでそれを変更する作業。次の協議会まで期間があるので計画にご意見等あればお気軽に、市民図書館、私のところにお願ひしたい。

平成30年度 第2回 高知県立図書館協議会・高知市立市民図書館協議会出席者名簿

平成31年3月29日(金)

○委員

オーテピア 4階ホール

役 職 等	氏 名
高知県学校図書館協議会会長 高知市立第四小学校長	近澤 玲子
高知市朝倉ふれあいセンター長	秋森 眞五
越知町教育長	山中 弘孝
元 高知県社会教育委員	尾崎 美樹
高知大学特任シニアプロフェッサー	加藤 勉
高知工科大学附属情報図書館館長 高知工科大学情報学群教授	篠森 敬三
高知県商工政策課インターンシップコーディネーター	片岡 浩司

○事務局

所 属 等	職 名	氏 名
高知県立図書館	館 長	渡辺 憲弘
	図書館副館長	上岡 和代
	専門企画員(司書育成・サービス推進担当)	山重 壮一
	企画調整課長兼チーフ(企画調整担当)	岡村 祐人
	チーフ(総務担当)	森本 由香
	チーフ(図書利用担当)	谷岡 祥子
	チーフ(支援協力担当)	尾形 千晶
	企画調整課 司書	上岡 真土
	企画調整課 主査	高橋 春菜
	企画調整課 司書	鈴木 章生
企画調整課 司書	土居 優奈	
高知市民図書館	館 長	貞廣 岳士
	副館長	高石 敏子
	図書利用担当係長事務取扱	弘瀬 聖子
	図書利用担当係長	西内 久代
	管理担当係長	弘瀬 友也
高知県 生涯学習課	課長	三觜 美香
高知県 新図書館整備課	課長補佐	宮本 伸二
	チーフ	西森 美恵子